

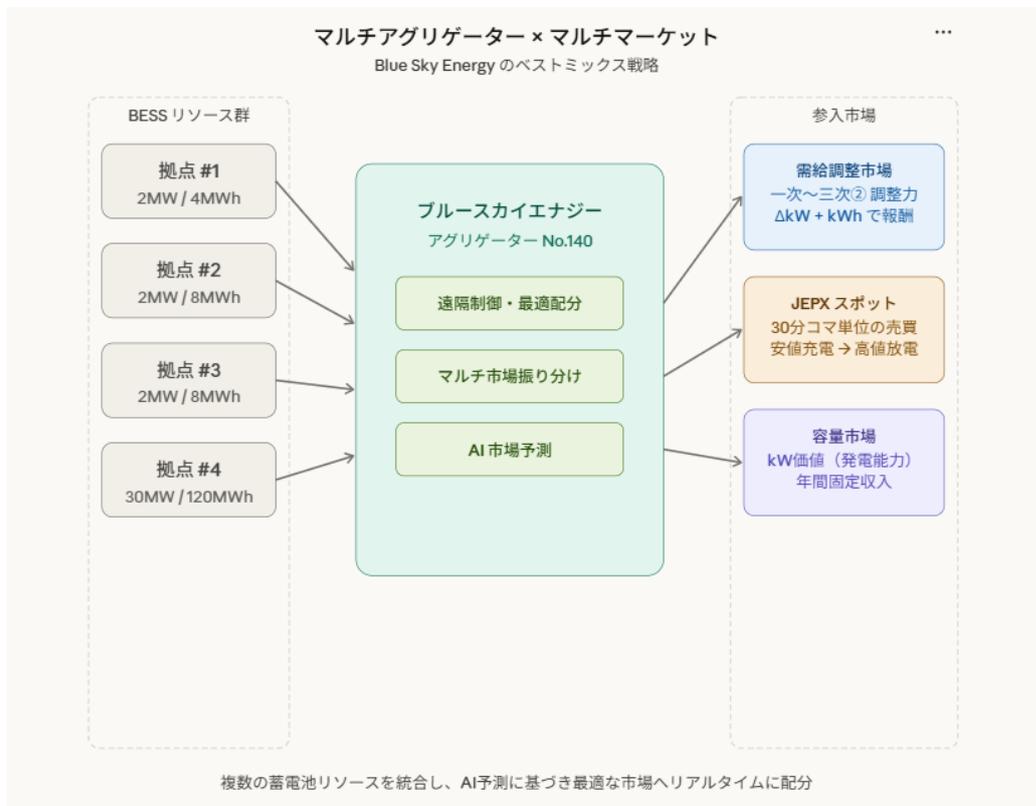
2026年4月1日
ブルースカイエナジー株式会社

特定卸供給事業者 (アグリゲーター) 認定のお知らせ

～全国 100 カ所の蓄電所開発に向けた
「マルチアグリゲーター戦略」を推進～

■概要

ブルースカイエナジー株式会社は電気事業法に基づき経済産業大臣へ特定卸供給事業制度※¹に定められた特定卸供給事業者（アグリゲーター）※²の届出を行い、2026年4月1日付で認定されましたのでお知らせいたします。当社は**2029年までに全国100カ所**の系統用蓄電所の開発を計画しており、本年3月23日には静岡県牧之原市において第一号蓄電所の商業運転を開始いたしました。100カ所規模の蓄電所群を効率的かつ安定的に運用するためには、電力市場での取引執行・需給調整・系統運用を担うアグリゲーション機能が不可欠です。今般のアグリゲーターライセンス取得は、この大規模開発計画を支える事業基盤の強化として戦略的に推進したものです。



■当社の「マルチアグリゲーター戦略」について

当社は全国 100 カ所の大型蓄電池施設を開発・運用しています。電力の売買で利益を最大化するには、「アグリゲーター」「蓄電池システム」「制御システム」という 3 種類のパートナーが欠かせません。当社はこれらを 1 社に丸投げせず、場所や条件ごとに一番優れた会社を選んで組み合わせる方針をとっています。さらに、外部に頼るだけでなく、自社でも電力売買の判断機能を持つことで、柔軟性とリスク分散を両立させています。こうした「いいとこ取り」の戦略により、各拠点で最大限の収益と安定運用を目指しています。

■マルチアグリゲーター戦略のメリット

リスク分散	特定のアグリゲーター 1 社への依存を回避し、契約条件の変更やサービス品質低下等のリスクを低減。100 カ所規模の蓄電所群において事業継続性を確保します。
競争環境の維持	複数のアグリゲーターを比較・評価できることで、手数料率・運用成績の透明性が向上。サイトごとに最適な条件での契約交渉が可能となり、収益の最大化に寄与します。
自社運用の柔軟性	自社ライセンスにより、外部の対応が困難な案件やスポット的な市場機会にも即座に対応可能。運用方針の変更や新市場への参入判断を自律的に行えます。
技術の最適組合せ	アグリゲーター・蓄電池システム・EMS を個別に選定する Best of Breed 方式により、各サイトの条件に最適化された構成を実現。

■マルチアグリゲーター戦略の留意点（課題）

システム統合コスト	異なる EMS・制御システムとの連携にはインテグレーションコストが発生します。標準化された API や通信プロトコルの採用により低減を図ります。
スケールメリットの分散	複数アグリゲーターに分散させることで、1 社あたりの契約規模が縮小し、大口契約による優遇条件を得にくくなる可能性があります。ポートフォリオ全体での最適配分により対応します。

■「いいとこどり戦略」によるパートナー選定

当社は、蓄電所ごとにアグリゲーター、蓄電池システム、EMS をそれぞれ独立して選定する方針を採用しています。系統用蓄電池事業は急速に発展する市場であり、技術革新やコスト低減のスピードは各領域で異なります。特定のパッケージソリューションに固定するのではなく、各要素を分離して最適なものを組み合わせることで、技術的優位性とコスト競争力の両立を目指します。

構成要素	役割	当社の選定方針
アグリゲーター	電力市場への入札・約定、需給調整・容量市場への参入と充放電制御	自社ライセンスと外部を併用し、サイト特性で使い分け
蓄電池システム	セル・パック・PCS 等の中核ハードウェア供給	設置スペースとコストに応じ最適メーカーを選定
EMS	充放電の自動最適化・価格予測・劣化管理の制御ソフト	独立系 EMS も含め、制御ロジックを比較評価し選定

■ 先行事例：静岡県牧之原市 第一号蓄電所

当社は、全国 100 カ所開発の第一弾として、2026 年 3 月 23 日に静岡県牧之原市において系統用蓄電所の商業運転を開始いたしました。太陽光発電が盛んな牧之原市において、地域の余剰再エネ電力を有効活用し、電力系統の安定化に貢献しています。

所在地	静岡県牧之原市
運転開始日	2026 年 3 月（商業運転開始済み）
設備概要	系統用蓄電池（リン酸鉄リチウムイオン電池）
運用市場	卸電力市場（スポット・時間前）、需給調整市場、容量市場のマルチユース運用
制御方式	先進的 EMS による充放電計画の自動最適化
位置づけ	全国 100 カ所蓄電所開発プログラムの第一号案件

牧之原蓄電所で得られた運用実績・ノウハウは、今後の 100 カ所展開における市場運用戦略、アグリゲーター評価基準、EMS 選定基準の策定に活用してまいります。

■ 認定概要

届出事業者	ブルースカイエナジー株式会社
届出制度	特定卸供給事業（電気事業法第 27 条の 30）
認定日	2026 年 4 月 1 日
事業内容	系統用蓄電池・太陽光発電所等の分散型エネルギーリソースを統合制御し、集約した電気を小売電気事業者・一般送配電事業者等に供給
対象リソース	系統用蓄電池（BESS）、太陽光発電所（FIP 電源・非 FIT 電源）

■今後の展開

当社は、特定卸供給事業者（アグリゲーター）の認定および小売電気事業者の登録を併せ持つことで、「開発→EPC→O&M→アグリゲーション」の蓄電池バリューチェーンを自社グループ内で一貫して提供できる体制を確立いたしました。

2029年までの全国100カ所・蓄電所開発プログラムの推進にあたり、マルチアグリゲーター戦略のもと、サイトごとに最適なアグリゲーター・蓄電池システム・EMSの組み合わせを追求し、事業収益の最大化と電力系統の安定化に貢献してまいります。

※1

アグリゲーター制度（特定卸供給事業制度）とは

「分散したエネルギー資源」を束ね、電力市場へ供給する新しい仕組み。

これまでの電力供給は、大規模な発電所（火力・原子力など）から一方通行で送られるのが主流でした。この制度では、各家庭や企業に点在する「太陽光発電」や「蓄電池（EV含む）」などの小さな電力をアグリゲーターがIT技術で一括制御（集約）します。

※2

アグリゲーター（特定卸供給事業者）とは

「分散している小さなエネルギーをまとめ、賢く供給する司令塔」のこと。

従来は大規模な発電所が主役でしたが、家庭の太陽光パネルや電気自動車といった「街の中に散らばる小さな電力リソース」をネットワークでつなぎ、1つの大きな発電所のように機能させることが求められている。

アグリゲーターはそれらのリソースに対し「電気を蓄えて」「放電して」といった指示を出し、電力を電力会社へ供給します。脱炭素社会の実現に向け、改正電気事業法によって新たに位置付けられた次世代のエネルギービジネスを担うプレイヤーです。

https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/electricity_measures/009/list/aguri-list.html

■ブルースカイエナジーについて

ブルースカイエナジーは、自然エネルギーを未来へつなぐというスローガンをもとに、再エネの主力電源化と、次の世代に繋いでいくための取組みに注力しています。主に大規模開発を伴わない太陽光発電所のリパワリング工事や蓄電所に関するEPC事業や開発事業を行っています。全国に24カ所の拠点を有しており、土地の調達から発電所や蓄電所の開発・施工のほか、草刈りや除雪、日常の修繕といった管理業務を担っています。現在は、リパワリングと蓄電所の開発に注力しており、リパワリングは全国100カ所、150MW以上の実績があり、蓄電所については2027年までに全国50カ所以上の系統用蓄電所の開発、太陽光発電所併設型蓄電池の開発も進めています。

会社名	ブルースカイエナジー株式会社
所在地	東京都中央区日本橋三丁目9-1 日本橋三丁目スクエア2階
代表者	上原 美樹
設立	2012年10月1日
事業内容	太陽光発電所および蓄電所の開発、施工、運用・管理など
公式サイト	https://www.blueskyenergy.co.jp/

<本件に関するお問い合わせ先>
ブルースカイエナジー株式会社
広報窓口
mail : kouhou@blueskyenergy.co.jp